

1 調査問題 1

(原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、【カード②】の下線部「農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた」ことの原因が、【カード③】の下線部「学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」ことにあるという因果関係を捉えることが求められています。情報相互の「原因」と「結果」という関係を捉えることができず、【カード②】の下線部が「考え」、【カード③】の下線部が「事例」について書かれていると捉えてしまった児童が多くみられました。収集した情報を整理しながらその情報の意味や相互の関係を考える習慣が身に付いていない様子がうかがえます。

① 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決しなかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて問題点とその解決方法を書こう。

【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいさようするのではないかと心配だ。

【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】
7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】
7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

② 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きましょか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでは、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼといくらべてみました。きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

調査日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	2	1
7月8日	3	1
7月15日	4	1

このようにことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

○ (条件)
○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

めたりするなど、情報と情報の関係を視覚的に捉えて整理できるようにすると効果的です。ICT 機器の活用も視覚的な情報整理に有効です。

2 調査問題 1 二

(図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、学校の米作りの問題点とその解決方法について、学校の米作りの問題点については【川村さんの文章】のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と【カード④】のそれぞれから分かることを書き、問題点の解決方法については【カード⑤】をもとに書き、六十字以上百字以内にまとめることが求められています。学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることかのいずれかしか書いていない児童が多くみられ、正答率は3割を下回りました。図表やグラフなどを用いて(この問題では、必要な条件を全て満たしながら)、自分の考えが伝わるように文章の書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

学習指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。そのためには、まず前項で述べたように、集めた情報を相互の関係性も考えながら整理し、図表やグラフにまとめることや、その過程で自分の考えを明確にしていく場面を丁寧に扱っていく必要があります。そして、文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。また、児童の学習状況に応じて、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも効果的です。自分の考えをまとめることが難しい児童には、「だから」「～ので」などの情報と情報との関係を表す語句や、「思う」「考える」などの思考を表す語句を例示したり、着目すべき言葉を示して児童とともに資料を読んだりする指導も有効です。更に、図表やグラフの使用の有無や用い方の異なる複数の文章を比べる場面を取り入れると、図表やグラフを用いることが自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることをより実感することができるでしょう。

3 調査問題 1 三 ア

(学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題では、同音異義語を文脈の中で正しく使い分けることが求められています。この場合の正答は「意外」ですが、「がい」を「外」と正しく書くことはできているものの、「い」を「意」と正しく書くことができなかった児童が多くみられました。同じ読み方をする「以」と解答した児童が多かったことから、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

学習指導に当たっては、文脈の中で適切な漢字を正しく選択できるよう、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切です。単に漢字練習を繰り返すのではなく、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味を考え必要に応じ辞書で調べたり言い換えを考えたりする活動を積極的に取り入れましょう。また、ICT 機器活用においては、日本語入力時の漢字変換間違いに気を付ける習慣が身に付くようにすることも大切です。

雑草取りを続けたのですが、ア い がいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

(1) 三 川村さんは、「川村さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていたイ、ウを漢字に書き直すことになりました。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。 師ア、ウを漢字で書いてねいに書きましよう。 師ア、